

# 授 業 概 要

(介護福祉科)

授業科目名 ころとからだのしくみⅡ		授業の種類 ( <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">講義</span> ・ 演習 ・ 実習 )	
授業担当者 棚橋 恭子	実務経験	病院、介護老人保健施設、准看護師とし従事し訪問看護ステーション、障害者支援施設、特別養護老人ホームに看護師として従事した。	
授業の回数 30回	時間数(単位数) 60時間(4単位)	配当学年・時期 1年・後期	( <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">必修</span> ・ 選択 )
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>障害や加齢によって生じた生活への支障に適切に対応するために、人間のころとからだの働きに関する基本的なしくみが説明できる。</p> <p>高齢者のころとからだの変化が一つひとつの生活行動とむすびついており、その基盤となっていることを説明できる。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>授業導入時、前回の復讐を行う。(口頭質問等)</p> <p>ころとからだのしくみⅠで学習したことを基本に、移動、身じたく、食事、入浴、排泄、休息、睡眠等の生活場面ごとに、ころとからだ、心身の機能低下や障害が生活に及ぼす影響、変化に対する観察ポイント、医療職との連携ポイント等について学習する。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1・身体の構成と生きるしくみについて学び説明できる。</li> <li>2・高齢者や身体上または精神上の障害のある人がより良い日常生活を営めるように生活支援に必要な知識と技術を学び実践できる。</li> </ol>			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 (15回までの場合はセル結合)			
1. 食事に関連したしくみ① からだをつくる栄養素と働き 2. 食事に関連したしくみ② 食べることの生理的意味 3. 食事に関連したしくみ③ 食事に関連したからだのしくみ 4. 食事に関連したしくみ④ 摂取・嚥下に関わる解剖のしくみ 5. 食事に関連したしくみ⑤ 消化と吸収のメカニズム		16. 排泄に関連したしくみ⑤ ストーマ・膀胱留置カテーテル 17. 排泄に関連したしくみ⑥ 排泄障害の種類と特徴 18. 排泄に関連したしくみ⑦ 排泄障害に応じた対処方法 19. 排泄に関連したしくみ⑧ 医療職との連携 20. 排泄に関連したしくみ⑨ 演習	

<p>6. 食事に関連したしくみ⑥ 食事の種類</p> <p>7. 食事に関連したしくみ⑦ 食べることに関する機能低下、障害の原因</p> <p>8. 食事に関連したしくみ⑧ 機能低下、障害が及ぼす食事への影響</p> <p>9. 食事に関連したしくみ⑨ 代償的な栄養摂取方法</p> <p>10. 食事に関連したしくみ⑩ 誤嚥と窒息</p> <p>11. 食事に関連したしくみ⑪ 脱水の原因と予防策</p> <p>12. 排泄に関連したしくみ① 排泄の生理的意味</p> <p>13. 排泄に関連したしくみ② 便の生成と排便のしくみ</p> <p>14. 排泄に関連したしくみ③ 尿の生成と排尿のしくみ</p> <p>15. 排泄に関連したしくみ④ 便秘・下剤と改善策</p>	<p>21. 睡眠に関連したしくみ① 睡眠の基礎知識</p> <p>22. 睡眠に関連したしくみ② 睡眠のための環境条件と生活習慣</p> <p>23. 睡眠に関連したしくみ③ 睡眠障害の種類と特徴</p> <p>24. 睡眠に関連したしくみ④ 睡眠障害の対応</p> <p>25. 死にゆく人のところとからだのしくみ ① 死のとらえ方</p> <p>26. 死にゆく人のところとからだのしくみ ② 死に対するところの理解</p> <p>27. 死にゆく人のところとからだのしくみ ③ 終末期から死までの身体機能の特徴</p> <p>28. 死にゆく人のところとからだのしくみ ④ 死後のからだの変化</p> <p>29. 死にゆく人のところとからだのしくみ ⑤ 死の受容過程</p> <p>30. 死にゆく人のところとからだのしくみ ⑥ 医療職との連携</p>
<p>[使用テキスト・参考文献]</p>	<p>最新・介護福祉士養成講座（中央法規出版）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・11 「ところとからだのしくみ」</li> <li>・プリント配布</li> </ul>
<p>[単位認定の方法及び基準]</p>	<p>・教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。</p> <p>1. 考查点(85%) 到達目標の修得状況を測るために、各回で実施した確認テストを編集した期末考查により算出する。</p> <p>2. 平常点(15%)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日々の授業に対するの取り組み方、提出物、参加態度などを含め評価する。(5%)</li> <li>・小テスト(確認テスト含む) 確認テストの点数により算出する。(10%)</li> </ul>

# 授 業 概 要

(介護福祉科)

授業科目名 コミュニケーション技術Ⅱ		授業の種類 ( 講義 ・ <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">演習</span> ・ 実習 )	
授業担当者 伊東 美子		実務経験	特別養護老人ホームにて、介護福祉士として介護業務に従事する。
授業の回数 15回	時間数 (単位数) 30時間 (2単位)	配当学年・時期 1年・後期	( <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">必修</span> ・ 選択 )
[授業の目的・ねらい] 介護を必要とする者の理解や援助的関係、援助的コミュニケーションについて説明ができ、利用者や利用者家族、あるいは多職種協働におけるコミュニケーション能力について述べる事ができる。			
[授業全体の内容の概要] コミュニケーション技術では、人間関係とコミュニケーションで学ぶコミュニケーションの基礎的な知識を基盤に、本人及び家族とのよりよい関係性の構築や障害の特性に応じたコミュニケーションの基本的な知識・技術を習得する。介護におけるチームのコミュニケーションについて、情報共有の意義、活用、管理などに関する基本知識・技術を習得する。			
[授業終了時の達成課題 (到達目標)] <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 介護現場で必要とされる人間関係の形成のためのコミュニケーション技術を説明でき利用者にかかわる人たちと利用者の関係調整能力について述べる事ができる。</li> <li>・ コミュニケーション障害のある利用者について説明ができ、それに対する適切なコミュニケーションを実施できる。</li> <li>・ 文書 (記録・報告書など) を通して、介護実践に必要とされる情報伝達技術について説明ができ、実施することができる。</li> </ul>			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 (15回までの場合はセル結合)			
1. コミュニケーションの過程 2. コミュニケーション障害を引き起こす主な疾患 3. 利用者の状況・状態に応じたコミュニケーション(視覚・聴覚) 4. 利用者の状況・状態に応じたコミュニケーション(盲ろう・構音障害・失語症) 5. 高次脳機能障害の特性に応じたコミュニケーション技術 6. 失語症、構音障害の特性に応じたコミュニケーション技術 7. 認知症の特性に応じたコミュニケーション技術 8. 若年性認知症の特性に応じたコミュニケーション技術 9. 視力・聴力の障害に応じたコミュニケーション技術 10. 知的障害、精神障害の特性に応じたコミュニケーション技術 11. チームのコミュニケーション 12. 記録 13. 情報の取り扱い、記録のIT化 14. 報告・連絡・相談、会議 15. まとめ			

<p>[使用テキスト・参考文献]</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「最新・介護福祉士養成講座 5 コミュニケーション技術」 (中央法規出版)</li> <li>・プリント配布</li> </ul>
<p>[単位認定の方法及び基準]</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。</li> <li>1. 考查点(85%) 到達目標の修得状況を測るために、各回で実施した確認テストを編集した期末考查により算出する。</li> <li>2. 平常点(15%) <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業への参加状況では発言回数が複数回である点を評価する。(5%)</li> <li>・提出課題において、到達目標の6割以上に達している点を評価する(10%)。</li> </ul> </li> </ul>

# 授 業 概 要

(介護福祉科)

授業科目名 医療的ケア I		授業の種類 ( <input checked="" type="checkbox"/> 講義 ・ 演習 ・ 実習 )	
授業担当者 棚橋 恭子	実務経験	病院、介護老人保健施設、准看護師とし従事し 訪問看護ステーション、障害者支援施設、特別養護 老人ホームに看護師として従事した。	
授業の回数 10回	時間数(単位数) 20時間(1単位)	配当学年・時期 1年・後期	( <input checked="" type="checkbox"/> 必修 ・ 選択 )
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>「個人の尊厳と自立」「医の倫理」について医療的ケアを行う立場のたつ専門職としての心構えを形成する。人の生命に直接関係する行為であることの意義と自覚について説明できる。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>授業導入時、前回の復習を行う。(口頭質問等)</p> <p>医療職との連携の下で医療的ケアを安全・適切に実施できるよう、必要な知識・技術を習得することを学習のねらいとしている。医療的ケアを初めて学ぶ学生が「なぜ医療的ケアを学ぶのか」についてしっかり理解するために解剖生理学的な基礎知識から実施の際の留意点、緊急時対応など実践的な知識・技術を学び、その上で医療的ケアを安全かつ適切に実施できるよう基礎的知識を身につける。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 「喀痰吸引」「経管栄養」を安全に実施するための基礎知識を習得し説明できる。</li> <li>2 個人の尊厳と自立について理解し、利用者の尊厳を守り、自立を助ける医療的ケアが実践ができる。</li> <li>3 利用者の自己決定の権利・個人情報の保護、利用者や家族に対する説明と同意の意味を説明できる。</li> </ol>			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 (15回までの場合はセル結合)			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療的ケア実施の基礎</li> <li>2. 医療の倫理・個人の尊厳と自立</li> <li>3. 保健医療・医行為に関する制度</li> <li>4. 喀痰吸引や経管栄養の安全な実施</li> <li>5. 救急蘇生</li> </ol>			

<p>6. 清潔の保持と感染予防①</p> <p>7. 清潔の保持と感染予防②</p> <p>8. 健康状態の把握</p> <p>9. 呼吸器系の解剖と働き</p> <p>10. いつもと違う呼吸</p>	
<p>[使用テキスト・参考文献]</p>	<p>最新介護福祉士全書 13 「医療的ケア」 メジカルフレンド社 プリント</p>
<p>[単位認定の方法及び基準]</p>	<p>・教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。</p> <p>1. 考查点(85%) 到達目標の修得状況を測るために、各回で実施した確認テストを編集した期末考查により算出する。</p> <p>2. 平常点(15%)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日々の授業に対しての取り組み方、提出物、参加態度などを含め評価する。(5%)</li> <li>・小テスト(確認テスト含む) 確認テストの点数により算出する。(10%)</li> </ul>

# 授 業 概 要

(介護福祉科)

授業科目名 介護過程 I—2		授業の種類 ( <input checked="" type="checkbox"/> 講義 ・ 演習 ・ 実習 )	
授業担当者 伊東 美子	実務経験	特別養護老人ホームにて、介護福祉士として介護業務に従事する。	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間(2単位)	配当学年・時期 1年・後期	( <input checked="" type="checkbox"/> 必修 ・ 選択 )
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得する学習とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>介護過程の意義・目的及び介護過程の展開の一連のプロセスに関する基礎的理解、介護過程とチームアプローチ、個別事例に通じた介護過程の展開の実際について、介護総合演習や介護実習、生活支援技術等の他科目との連動を視野に入れて、介護過程を展開できる能力を養う。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① アセスメントの意味と方法が理解できる</li> <li>② アセスメントから、利用者の生活課題が導きだせることができる</li> <li>③ 利用者に適切な方法を用いてアセスメントができる</li> <li>④ アセスメントした内容が理解できる</li> </ul>			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 (15回までの場合はセル結合)			
コマ数：15 コマ <ul style="list-style-type: none"> <li>1. 生活支援アセスメントの説明(記入例)</li> <li>2. 生活支援アセスメントの作成(事例学習)①</li> <li>3. 生活支援アセスメントの作成(事例学習)②</li> <li>4. 生活支援アセスメントの作成(事例学習)③(施設とのコラボ授業)</li> <li>5. 生活支援アセスメントの作成(事例学習)④</li> <li>6. 生活支援アセスメントの作成(事例学習)⑤</li> <li>7. 介護実習 I—3 事前学習</li> <li>8. 介護実習 I—3 事前学習</li> <li>9. 実習 I—3 まとめ</li> <li>10. 実習 I—3 まとめ(報告会準備)</li> <li>11. 実習 I—3 まとめ(報告会準備)</li> <li>12. 実習 I—3 まとめ(報告会準備)</li> <li>13. 実習 I—3 まとめ(報告会準備)</li> <li>14. 実習 I—3 まとめ(報告会準備)</li> <li>15. 実習 I—3 まとめ(報告会準備) 総まとめ</li> </ul>			

[使用テキスト・参考文献]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アクティブラーニングで学ぶ「介護過程ワークブック」 (株式会社みらい)</li> <li>・プリント配布</li> </ul>
[単位認定の方法及び基準]	<p>・教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 査点(80%) 到達目標の修得状況を測るために、各回で実施した確認テストを編集した期末査により算出する。</li> <li>2. 平常点(10%) ・日々の授業に対しての取り組み方、提出物、参加態度などを含め評価する。</li> <li>3. 小テスト (確認テスト含む) (10%) ・確認テストの点数により算出する。</li> </ol>

# 授 業 概 要

(介護福祉科)

授業科目名 介護実習 I-1, 2, 3		授業の種類 ( 講義 ・ 演習 ・ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">実習</span> )	
授業担当者 伊東 美子	実務経験	特別養護老人ホームにて介護福祉士として介護業務に従事する。	
授業担当者 棚橋 恭子	実務経験	病院、介護老人保健施設、准看護師とし従事し 訪問看護ステーション、障害者支援施設、特別養護老人ホームに看護師として従事する。	
授業担当者 阿部 紀男	実務経験	特別養護老人ホーム、市町村社会福祉協議会の職員として高齢者ケア全般に従事した。	
授業の回数 1日8時間×25日			
時間数(単位数) 200時間(4単位)		配当学年・時期 1年・後期	
( <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">必修</span> ・ 選択 )			
[授業の目的・ねらい] さまざまな生活の場における利用者個々の生活リズムや個性を理解したうえで、ケアの個別性について理解し、利用者・家族とのコミュニケーションを実践し、生活支援技術の確認を行い、他の専門職等との協働や関係機関との連携を通じたチームの一員としての介護福祉士としての役割について理解する。			
[授業全体の内容の概要] 介護実習では、個々の生活リズムや個性を理解するという観点から様々な生活の場において個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、多職種協働や関係機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割を理解する。			
個別ケアを行うために、個々の生活リズムや個性を理解し、利用者のニーズに沿って利用者ごとの介護計画の作成、実施、実施後の評価、計画の修正といった一連の介護過程を展開し、他科目で学習した知識や技術を統合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を身につける。			
[授業終了時の達成課題(到達目標)]			
② 様々な生活の場における個別ケアを理解することができる。			
② 両者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、多職種協働や関係機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割について理解することができる。			

実習 I - 1 (5日間) ……1年生後期

目的：通所介護の特性を学び、利用者から親しまれる態度、コミュニケーション方法を学ぶ。

目標：①施設の役割・機能が居宅で暮らす利用者に対して、どのような役割を果たしているのか理解する。

②障害特性に応じたコミュニケーションを使用し、利用者を理解する。

③利用者が、居宅で暮らすことの意義、地域生活をどのように継続しているのかを学ぶ。

達成方法・通所介護実習は、1日の実習を8時間とし、5日間を基本とする。

- ・マンツーマン指導を基本とする。
- ・利用者と職員がどのように信頼関係を築いているか観察し理解する。
- ・レクリエーション活動の企画を行い、実施する。
- ・利用者、家族に対する接し方や援助方法について指導を受ける。
- ・利用者とその家族、関係機関などの地域社会との連携方法を理解する。

実習 I - 2 (5日間) ……1年生後期

目的：利用者の福祉施設での日常生活について理解することで、一人ひとりのライフスタイルの多様性を学ぶ。

目標：①利用者とのコミュニケーションを通じて、個別性を理解するとともに、介護職としての一般的な役割について理解する。

②利用者への日常生活援助を提供し、利用者が求めている援助方法を理解し、どのように対応すべきか考察することで、判断力を養う。

③利用者を敬愛し、尊重する姿勢を身につけることで、マナー、職務規定を遵守する。

達成方法・地域密着実習は、1日の実習を8時間とし、5日間を基本とする。

- ・マンツーマン指導を基本とする。
- ・コミュニケーション技術を用いて利用者と積極的に関わる。
- ・利用者との関りを通じて、適切な対応方法について学び、実践する。
- ・実習指導者からの指導のもと、基本的な介護技術を学び、実践する。
- ・日常生活を含めた、個別性について理解する。

実習 I - 3 (15日間) ……1年生後期

目的：様々な利用者に出会い、思いや願いにふれることで利用者を理解する。また、利用者の日常生活の理解を通して、自立支援を観点とした基礎的な援助方法について学ぶ。

目標：①「その人らしさ」が発揮できる日常生活を支援し、継続できるよう個別ケアの重要性を理解する。

②利用者とのコミュニケーションを通じた人間関係の形成を行い、状況に応じた適切な生活支援技術とは何かについて理解する。

③障害レベルに応じて求められる介護方法、それを援助する福祉用具の知識や活用能力を身につけ、習得する。

達成方法・入所施設実習は、1日の実習を8時間とし、15日間を基本とする。

- ・マンツーマン指導を基本とし習熟度をはかる。
- ・実習先の勤務時間に合わせて、早番・遅番を実施する。(基本は日勤)
- ・コミュニケーション技術を用いて利用者と積極的に関わる。
- ・利用者との関りを通じて、適切な対応方法について学び、実践する。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習指導者からの指導のもと、基本的な介護技術を学び、実践する。</li> <li>・日常生活を含めた、個別性について理解する。</li> </ul>
[使用テキスト・参考文献]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護福祉士養成講座 「介護総合演習・介護実習」 中央法規</li> <li>・介護実習指導要綱</li> </ul>
[単位認定の方法及び基準]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。</li> <li>1. 考查点(80%) 到達目標の修得状況を測るために、各回で実施した確認テストを編集した期末考查により算出する。</li> <li>2. 平常点(20%) <ul style="list-style-type: none"> <li>・日々の授業に対する取り組み方、参加態度などを含め評価する。(10%)</li> <li>・提出課題において、期日を厳守し到達目標に達している点を評価する(10%)。</li> </ul> </li> </ul>

# 授 業 概 要

(介護福祉科)

授業科目名 介護総合演習Ⅰ－２		授業の種類 ( <input checked="" type="checkbox"/> 講義 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 演習 ・ 実習 )	
授業担当者 伊東 美子	実務経験	特別養護老人ホームにて介護福祉士として介護業務に従事する。	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間(1単位)	配当学年・時期 1年・後期	( <input checked="" type="checkbox"/> 必修 ・ 選択 )
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>介護実習に向けて心構え、予備知識、動機づけ等の準備を行い、介護実習中には実践力として実施し、実習後は十分な振り返りを行うことでより効果的な介護実習を次回実施できるようにする。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>介護実習の意義、実習Ⅰの位置づけを学習する。                  介護事業所の概要、利用者の生活、介護福祉士としての役割について学習し、実習ごとの目的をきちんと踏まえたうえで自分の目標を明確にできるようにする。実習前に学内で学んだ知識・技術について再確認し実習に臨ませる。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <p>①学んだ知識や技術などを統合して、実際場面において説明できる。                  ②介護場面で遭遇した課題を解決するために推論し、判断し、それを実施する。                  ③様々な人との人間関係を構築するために、コミュニケーション技術などを活用し、表現することができる。</p>			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 (15回までの場合はセル結合)			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習Ⅰ－３の説明 個人票作成</li> <li>2. 実習Ⅰ－３計画書・心構え作成</li> <li>3. 実習Ⅰ－３計画書・心構え作成</li> <li>4. 実習前準備</li> <li>5. 実習前準備</li> <li>6. レポート指導</li> </ol>			

<p>7. レポート作成</p> <p>8. レポート作成</p> <p>9. レポート作成</p> <p>10. レポート作成</p> <p>11. パワーポイント作成</p> <p>12. パワーポイント作成</p> <p>13. 報告会準備</p> <p>14. 報告会準備</p> <p>15. まとめ</p>	
<p>[使用テキスト・参考文献]</p>	<p>プリント配布</p>
<p>[単位認定の方法及び基準]</p>	<p>・教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。</p> <p>1. 査査点(85%) 到達目標の修得状況を測るために、各回で実施した確認テストを編集した期末査査により算出する。</p> <p>2. 平常点(20%)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日々の授業に対しての取り組み方、参加態度などを含め評価する。(10%)</li> <li>・提出課題において、期日を厳守し到達目標に達している点を価する(10%)</li> </ul>

# 授 業 概 要

(介護福祉科)

授業科目名 社会と制度の理解 I - 2		授業の種類 ( <input checked="" type="checkbox"/> 講義 ・ 演習 ・ 実習 )	
授業担当者 安藤 清彦	実務経験	障害者支援施設等で、社会福祉士として相談支援等の業務に従事する。	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間(2単位)	配当学年・時期 1年・後期	( <input checked="" type="checkbox"/> 必修 ・ 選択 )
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 「生活と福祉」では、個人の暮らしと生活のあり方を社会福祉との関連で捉え、その意義と理念を理解することをねらいとする。</li> <li>2 「社会保障制度」では、歴史と変遷、しくみについて理解することで、社会保障制度が全ての国民の暮らしにとって必須であることを理解する。</li> <li>3 「介護保険制度」では、創設の背景と目的を理解し、実際にどのように活用されているか理解する。</li> </ol> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>社会の理解では、生活の基本機能とライフサイクルの変化及び家族、社会、組織、地域社会の概念を理解する。その上で、地域社会における生活支援について学び、地域共生社会の実現に向けた制度や施策、社会保障制度、社会福祉と介護保険制度、障害者福祉と障害者保健福祉制度や他の介護実践に関連する諸制度にどのようなものがあるかを具体的に学ぶ。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 生活の中の社会福祉について自分の生活と結びつけて考えることができる。</li> <li>2 社会保障の基本的な考え方、歴史と変遷、仕組みを知る。</li> <li>3 介護の専門職として介護保険制度の概要がわかる。</li> </ol>			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本における社会の変化(少子高齢社会)</li> <li>2. 現代におけるライフスタイルの変化、育児と介護の制度</li> <li>3. 地域社会の変容</li> <li>4. 社会保障とは何か、社会保障の目的と機能</li> <li>5. 日本の社会保障制度の変遷①</li> <li>6. 日本の社会保障制度の変遷②</li> <li>7. 日本の社会保険①</li> <li>8. 日本の社会保険②・日本の社会扶助</li> <li>9. 介護保険制度の創設と目的</li> <li>10. 介護保険制度における介護支援専門員の役割</li> <li>11. 介護保険制度のしくみ、基礎的理解①</li> <li>12. 介護保険制度のしくみ、基礎的理解②</li> <li>13. 介護保険制度における組織、団体の機能と役割</li> <li>14. 地域支援事業</li> <li>15. まとめ</li> </ol>			

[使用テキスト・参考文献]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「最新 介護福祉士養成講座② 社会の理解」 (中央法規出版)</li> <li>・プリント配布</li> </ul>
[単位認定の方法及び基準]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。</li> <li>1. 考查点(85%) 到達目標の修得状況を測るために、各回で実施した確認テストを編集した期末考查により算出する。</li> <li>2. 平常点(15%) <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業への参加状況では発言回数が複数回である点を評価する。(5%)</li> <li>・提出課題において、到達目標の6割以上に達している点を評価する(10%)。</li> </ul> </li> </ul>

# 授 業 概 要

(介護福祉科)

授業科目名 障害の理解Ⅱ		授業の種類 ( <input checked="" type="checkbox"/> 講義 ・ 演習 ・ 実習 )	
授業担当者 石原 裕子		実務経験	
授業の回数 15回	時間数 (単位数) 30時間 (2単位)	配当学年・時期 1年・後期	( <input checked="" type="checkbox"/> 必修 ・ 選択 )
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>障害のある人の心理や身体機能に関する基礎的知識を習得するとともに、障害のある人の地域での生活を理解し、本人のみならず家族や地域を含めた周囲の環境への支援を理解するための基礎的な知識を習得する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>障害の理解では、障害の基礎的理解として、障害の概念や基本的理念、さらに障害の医学的・心理的側面の基礎的な知識を学び、障害のある人のライフステージや特性に応じた支援、多職種連携と協働、家族への支援について学ぶ。</p> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 障害のある人のライフステージや障害の特性を踏まえ、機能の変化が生活に及ぼす影響を理解し、QOLを高める支援につなぐことができるようにする。</li> <li>・ 障害のある人の生活を地域で支えるためのサポート体制や、多職種連携・協働による支援について理解できるようにする。</li> <li>・ 障害のある人を支える家族の理解について理解し、家族の受容段階や介護力の応じた支援につなぐことができるようにする。</li> </ul>			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 (15回までの場合はセル結合)			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 重症心身障害①</li> <li>2. 重症心身障害②</li> <li>3. 知的障害①</li> <li>4. 知的障害②</li> <li>5. 精神障害①</li> <li>6. 精神障害②</li> <li>7. 高次脳機能障害①</li> <li>8. 高次脳機能障害②</li> <li>9. 発達障害①</li> <li>10. 発達障害②</li> <li>11. 難病①</li> <li>12. 難病②</li> <li>13. 地域のサポート体制</li> <li>14. チームアプローチ</li> <li>15. 家族への支援 (家族への支援・家族の介護力の評価と介護負担の軽減)</li> </ol>			

[使用テキスト・参考文献]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「最新 介護福祉士養成講座⑭ 障害の理解」 (中央法規出版)</li> </ul>
[単位認定の方法及び基準]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。</li> <li>1. 考查点(85%) 到達目標の修得状況を測るために、各回で実施した確認テストを編集した期末考查により算出する。</li> <li>2. 平常点(15%) <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業への参加状況では発言回数が複数回である点を評価する。(5%)</li> <li>・提出課題において、到達目標の6割以上に達している点を評価する(10%)。</li> </ul> </li> </ul>

# 授 業 概 要

(介護福祉科)

授業科目名 人間関係とコミュニケーション I		授業の種類 ( <input checked="" type="checkbox"/> 講義 ・ 演習 ・ 実習 )	
授業担当者 栄 千恵子		実務経験	神経内科クリニック、教育研究所等で心理カウンセラーとして勤務。
授業の回数 15回	時間数 (単位数) 30時間 (2単位)	配当学年・時期 1年・後期	( <input checked="" type="checkbox"/> 必修 ・ 選択 )
[授業の目的・ねらい] 対人関係に必要な人間の関係性を理解し、関係形成に必要なコミュニケーションの基礎的な知識を習得する学習とする。			
[授業全体の内容の概要] 人間関係とコミュニケーションの基礎では、自己理解、他者理解をもとに対人関係とコミュニケーションについて理解する。また、コミュニケーションの技法の基礎を学び、組織におけるコミュニケーションについて理解する。			
[授業終了時の達成課題 (到達目標)] <ul style="list-style-type: none"> <li>・ コミュニケーションの意義、コミュニケーションの様々な方法がわかる。</li> <li>・ 「対話する」、「意思の疎通を図る」、「説明責任がある」ということをふまえて、基礎的なコミュニケーション能力を身に付け、実践できる。</li> </ul>			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数			
1. 人間らしさのはじまり 2. 自分と他者の理解 3. 発達心理学からみた人間関係 4. 社会心理学からみた人間関係 5. 人間関係とストレス 6. コミュニケーションの概念 7. コミュニケーションの基本構造 8. コミュニケーションの手段 9. 対人援助の基本となる人間関係とコミュニケーション 10. 対人援助における基本的態度 11. 援助的人間関係の形成とバイステックの7つの原則 12. 組織の条件とコミュニケーションの特徴 13. 組織における情報の流れ 14. 組織において求められるコミュニケーション 15. まとめ			
[使用テキスト・参考文献]		・ 「最新 介護福祉士養成講座① 人間の理解」 (中央法規出版)	

[単位認定の方法及び基準]	<ul style="list-style-type: none"><li>・教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。</li><li>1. 考查点(85%) 到達目標の修得状況を測るために、各回で実施した確認テストを編集した期末考查により算出する。</li><li>2. 平常点(15%)<ul style="list-style-type: none"><li>・授業への参加状況では発言回数が複数回である点を評価する。(5%)</li><li>・提出課題において、到達目標の6割以上に達している点を評価する(10%)。</li></ul></li></ul>
---------------	---

# 授 業 概 要

(介護福祉科)

授業科目名 生活レクリエーション援助Ⅱ		授業の種類 ( 講義 ・ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">演習</span> ・ 実習 )	
授業担当者 須藤 ひろみ	実務経験	専門学校レクリエーション講師、長岡市介護予防運動指導員として、レクリエーションに従事している。	
授業担当者 星島 宏治	実務経験	自営業でバルーンアート職人として従事している。	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間(2単位)	配当学年・時期 1年・後期	( <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">必修</span> ・ 選択 )
[授業の目的・ねらい] ・介護実践におけるレクリエーション活動の意義を知り、実践に向けた計画を立案し、実践できるようになる。そのためにコミュニケーションをとる能力や方法を習得し、目的に合わせたレクリエーションの選択・展開方法について学習する。			
[授業全体の内容の概要] ・介護実践におけるレクリエーション活動の意義を知り、実践に向けた計画を立案し、実践できる力を学ぶ。そのためにコミュニケーションをとる能力や方法を習得し、目的に合わせたレクリエーションの選択・展開方法について学ぶ。			
[授業終了時の達成課題(到達目標)] 1. 個人及び集団に適したコミュニケーション方法が選択できる。 2. 対象・目的に合わせたレクリエーションを計画、展開、実践できる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数			
【コミュニケーション・ワーク】 <span style="float: right;">1～14 須藤ひろみ</span> 1. コミュニケーション・ワーク① 2. コミュニケーション・ワーク② 3. コミュニケーション・ワーク③			
【目的に合わせたレクリエーション・ワーク】 4. 目的に合わせたレクリエーション・ワーク① 5. 目的に合わせたレクリエーション・ワーク② 6. 目的に合わせたレクリエーション・ワーク③			
【対象に合わせたレクリエーション・ワーク】 7. 対象に合わせたレクリエーション・ワーク① 8. 対象に合わせたレクリエーション・ワーク② 9. 対象に合わせたレクリエーション・ワーク③			
【実習Ⅰ-1 事前準備】 10. 計画書の作成① 11. 計画書の作成② 12. 事前準備 13. リハーサル① 14. リハーサル②			

## 15. バルーンアート

[使用テキスト・参考文献]	・「楽しさをとおした心の元気づくり～レクリエーション支援の理論と方法」(日本レクリエーション協会) ・プリント資料配布
[単位認定の方法及び基準]	・教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 1. 査査点(85%) 到達目標の修得状況を測るために、各回で実施した確認テストを編集した期末査査により算出する。 2. 平常点(15%) ・授業への参加状況では発言回数複数回である点を評価する。(5%) ・提出課題において、到達目標の6割以上に達している点を評価する(10%)。

# 授 業 概 要

(介護福祉科)

授業科目名 生活支援技術 I-2		授業の種類 ( <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">講義</span> ・ 演習 ・ 実習 )	
授業担当者 伊東 美子	実務経験	特別養護老人ホームにて、介護福祉士として介護業務に従事する。	
授業担当者 内藤 照美	実務経験	大学、専門学校、高等学校にて、高校教諭、講師として管理栄養等業務に従事する。	
授業の回数 15回	時間数 (単位数) 30時間 (2単位)	配当学年・時期 1年・後期	( <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">必修</span> ・ 選択 )
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できるように説明ができ、実施ができる。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>生活支援技術では、ICFの視点を生活支援に活かすことの意義を理解し、自立に向けた居住環境、移動、身支度、食事、入浴・清潔保持、排せつ、家事、休息・睡眠、人生の最終段階における介護、福祉用具の意義と活用について基礎的な知識・技術を学ぶ。</p> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護福祉士として実務につくための基本的な介護の知識・技術・態度を習得し、それらを統合して適切に実施できる。</li> </ul>			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 (15回までの場合はセル結合)			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生活を理解する視点 <span style="float: right;">: 福田康之 1～7</span></li> <li>2. 生活を理解する視点</li> <li>3. 生活支援の基本的な考え方</li> <li>4. 生活支援の基本的な考え方</li> <li>5. 自立生活を支える意義と目的、家事の支援におけるアセスメント</li> <li>6. 掃除・ごみ捨て方法、裁縫・衣類の補修と衣類、寝具の衛生管理、買い物援助</li> <li>7. 家庭経営、家計の管理、他職種との役割と協働と在宅・施設での他職種との連携</li> <li>8. 介護予防(サルコペニア対策)、 <span style="float: right;">: 内藤照美 8～15</span> 食生活の基本、栄養素</li> <li>9. 炭水化物の働き</li> <li>10. 食物繊維、脂質の働き</li> <li>11. たんぱく質の働き</li> <li>12. ミネラルの働き</li> <li>13. ビタミンの働き、献立</li> <li>14. 介護食、被服の機能</li> <li>15. 被服の着方、まとめ</li> </ol>			
[使用テキスト・参考文献]		・「最新 介護福祉士養成講座⑥ 生活支援技術 I」 (中央法規出版)	

[単位認定の方法及び基準]	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。</li><li>1. 考查点(85%) 到達目標の修得状況を測るために、各回で実施した確認テストを編集した期末考查により算出する。</li><li>2. 平常点(15%)<ul style="list-style-type: none"><li>・ 授業への参加状況では発言回数が複数回である点を評価する。(5%)</li><li>・ 提出課題において、到達目標の6割以上に達している点を評価する(10%)。</li></ul></li></ul>
---------------	--

# 授 業 概 要

(介護福祉科)

授業科目名 生活支援技術Ⅱ－２		授業の種類 ( 講義 ・ <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">演習</span> ・ 実習 )	
授業担当者 伊東 美子	実務経験	特別養護老人ホームにて、介護福祉士として介護業務に従事する。	
授業担当者 若杉 かおり	実務経験	歯科診療所にて、歯科衛生士として歯科業務に従事する。	
授業の回数 20回	時間数 (単位数) 40時間 (2単位)	配当学年・時期 1年・後期	( <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">必修</span> ・ 選択 )
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から本人主体の生活が維持できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>ICFの視点を生活支援に活かすことの意義を理解し、自立に向けた居住環境、移動、身支度、食事、入浴、清潔保持、排泄、家事、休息、睡眠、人生の最終段階における介護、福祉用具の意義と活用について基礎的な知識や技術を学ぶ。</p> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <p>① 対象者の能力を活用・発揮し、自立支援のための居住環境の整備について基礎的な知識が理解できる</p> <p>② 生活の継続性を支援する観点から、対象者が個々の状態に応じた家事を自立的に行うことを支援するための、基礎的な知識や技術を習得できるようにする。</p>			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 (15回までの場合はセル結合)			
1. 臥床状態でのシーツ交換 2. 臥床状態でのシーツ交換 3. 臥床状態でのシーツ交換確認テスト 4. 臥床状態での着脱介助 (前開き衣類) 5. 臥床状態での着脱介助 (前開き衣類) 6. 臥床状態での着脱介助 (浴衣) 7. 臥床状態での着脱介助 (浴衣) 8. 臥床状態での衣類・シーツ交換確認テスト 9. 臥床状態での衣類・シーツ交換確認テスト 10. 利用者の状態に応じた介助		11. 口腔ケア① (若杉かおり 11～12) 12. 口腔ケア② 13. 休息・睡眠の介護① 14. 休息・睡眠の介護② 15. 終末期のケア① 16. 終末期のケア② 17. 終末期のケア③(エンゼルケア) 18. 終末期のケア④ (エンゼルケア) 19. 終末期ケア (安楽とは何か) 確認テスト 20. まとめ	
[使用テキスト・参考文献]	最新 介護福祉士養成講座 7 生活支援技術Ⅰ Ⅱ 中央法規出版		

[単位認定の方法及び基準]	<ul style="list-style-type: none"><li>・教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。</li><li>1. 考查点(85%) 到達目標の修得状況を測るために、各回で実施した確認テストを編集した期末考查により算出する。</li><li>2. 平常点(15%)<ul style="list-style-type: none"><li>・授業への参加状況では発言回数が複数回である点を評価する。(5%)</li><li>・提出課題において、到達目標の6割以上に達している点を評価する(10%)。</li></ul></li></ul>
---------------	---

# 授 業 概 要

(介護福祉科)

授業科目名 認知症の理解Ⅱ		授業の種類 ( <input checked="" type="checkbox"/> 講義 ・ 演習 ・ 実習 )	
授業担当者 阿部 紀男	実務経験	特別養護老人ホーム、市町村社会福祉協議会の職員として高齢者ケア全般に従事した。	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間(2単位)	配当学年・時期 1年・後期	( <input checked="" type="checkbox"/> 必修 ・ 選択 )
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>認知症の人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、認知症の人を中心に捉え、本人や家族、地域の力を活かした認知症ケアについて理解するための基礎的な知識を習得する学習とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>利用者個々の特性を捉えた適切なケアを提供するための知識や支援方法、地域で生活する認知症の人とその家族の支援体制のあり方、他職種連携・協働のあり方について理解し、基礎となる知識を理論的に学ぶ。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <p>認知症の人の生活及び家族や社会とのかかわりからその人を中心としたケアの実践につなげることができるようになる。また認知症の人を支える家族の課題について理解し、支援につなげることができるようになる。具体的には「認知症の人とのコミュニケーション」「認知症の人へのさまざまなケア手法」「環境づくり」「家族支援」「地域生活支援」について述べることができる。</p> <p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 (15回までの場合はセル結合)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 認知症ケアの歴史</li> <li>2. 認知症高齢者の現状</li> <li>3. 認知症による障害</li> <li>4. 認知症ケアの理念と視点</li> <li>5. 認知症ケアの実際①</li> <li>6. 認知症ケアの実際②</li> <li>7. 演習①</li> <li>8. 認知症ケアの実際③</li> <li>9. 認知症ケアの実際④</li> <li>10. 演習②</li> <li>11. 介護者支援①</li> <li>12. 介護者支援②</li> <li>13. 認知症の人の地域生活支援①</li> <li>14. 認知症の人の地域生活支援②</li> <li>15. まとめ</li> </ol>			

[使用テキスト・参考文献]	「介護福祉士養成講座 認知症の理解」(中央法規出版) 「新版介護基礎学－高齢者自立支援の理論と実際」(医歯薬出版)
[単位認定の方法及び基準]	・教科出席率が 80%以上で、筆記試験 60 点以上